

福島・荒井猫田遺跡(第二号)

- 1 所在地 福島県郡山市川向、安積町日出山
 - 2 調査期間 第一三次調査 一九九九年(平11)四月～二〇〇〇年三月
 - 3 発掘機関 郡山市教育委員会・(財)郡山市埋蔵文化財発掘調査事業団
 - 4 調査担当者 高田 勝・中島雄一・佐久間正明・工藤健吾
 - 5 遺跡の種類 町跡及び館跡
 - 6 遺跡の年代 一二世紀後半～一五世紀
 - 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要
荒井猫田遺跡第一三次調査出土木簡については、九点についてのみ報告したが、同調査の全資料について整理が終了したので、未報告分について報告することとする。
- 木簡は、町跡地区と館Bを区画する埋没河川から四八点(うち九点が本誌第二二号で既報告)、埋没河川南岸の町跡地区から確認された井戸から一点、館Bの外堀東側(外郭)の井戸から一点の計五〇点である。木簡の年代は、(1)のみ共伴した木製の形などから一四世紀前半、それ以外はいずれも共伴した土師質土器などの年代観から多くが一五世紀に入るものと考えている。

町跡地区井戸











- (1) 「V南口」 (251)×25×5 039 第一号

館B外郭井戸

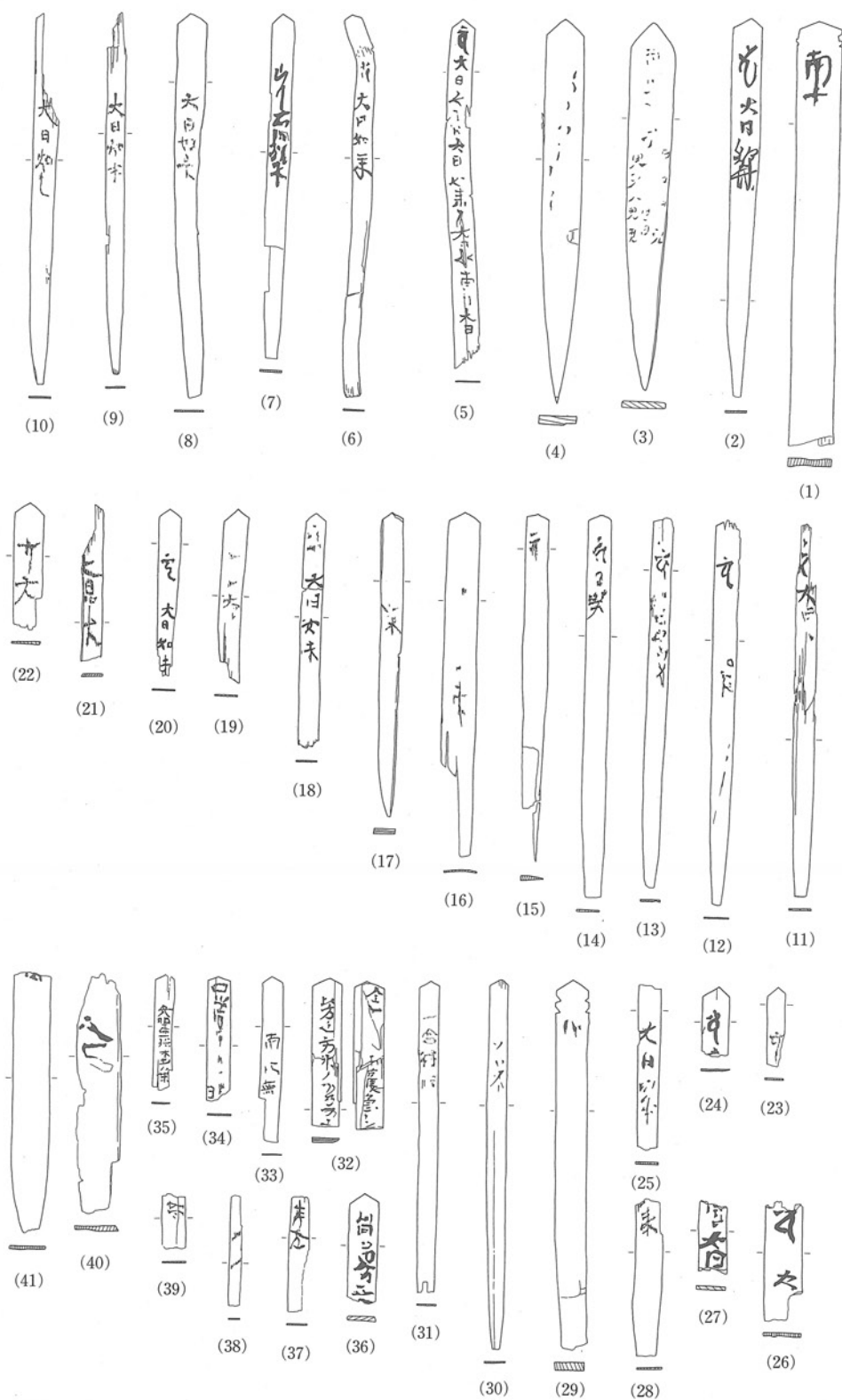
- (2) 「大日如来」 (225)×17×1 051 第二号

埋没河川

- (3) 「符籙」 216×27×3.5 051 第四号
- (4) 「符籙カ」 222×22×5 051 第五号
- (5) 「大日如来」大日如来大日如来大日如来南無大日 (195)×14×0.5 019 第九号
- (6) 「大日如来」 (221)×12×0.8 019 第三号
- (7) 「大日如来」 (200)×13×1 019 第一四号
- (8) 「大日如来」 (228)×13×3 019 第一五号
- (9) 大日如来 (210)×11×0.8 059 第一六号
- (10) 大日如来 (216)×13×0.8 059 第一七号
- (11) 「大日」 (212)×12×1 059 第一八号

| | | | | | |
|------|---|-----------------------|------|--|-----------------------|
| (12) |  □ | (224)×14×0.8 059 第一九号 | (26) |  大 | (69)×22×2 081 第三五号 |
| (13) |  大日如来 | (214)×11×0.8 059 第二〇号 | (27) | □□大日 | (38)×17×2 081 第三六号 |
| (14) |  □ | (222)×(14)×1 059 第二一号 | (28) | ×来 | (91)×14×1 081 第三七号 |
| (15) |  □ | (203)×15×3 019 第二号 | (29) | □ | (215)×19×5 039 第三八号 |
| (16) | □ □来 | (200)×16×1.2 019 第三号 | (30) | □ □ | (214)×12×1 051 第三九号 |
| (17) | □来 | 177×13×3 019 第四号 | (31) | □□□□ | (181)×11×0.5 019 第四〇号 |
| (18) |  大日如来 | (137)×12×0.7 019 第二六号 | (32) | ・ 〔符録〕急々 | (85)×17×2.5 019 第四一号 |
| (19) | □□大 | (101)×14×1 019 第二八号 | (33) | ・ 〔南〕無 | (95)×12×0.5 019 第四二号 |
| (20) |  大日如来 | (97)×13×0.8 019 第二九号 | (34) | □□ | (72)×13×0.8 019 第四三号 |
| (21) | 大日如来 | (82)×12×2 081 第三〇号 | (35) | □□ | (67)×10×0.5 019 第四四号 |
| (22) |  大 | (73)×16×1.2 019 第三一号 | (36) | □□ | (64)×16×3 019 第四五号 |
| (23) |  □ | (46)×11×1 019 第三二号 | (37) | 〔来〕□ | (67)×12×0.8 019 第四六号 |
| (24) |  □ | (40)×15×1 019 第三三号 | (38) | □□ | (65)×7×0.5 081 第四七号 |
| (25) | 大日如来 | (96)×13×1 081 第三四号 | | | |

釈文の訂正と追加





(31)×13×0.5 081 第四八号



(140)×26×3 081 第四九号



(151)×22×2 081 第五〇号

なお、本誌第三二号で報告した分と、出土木簡の通し番号の対照は次の通りである。本誌第三号(1)は第三号、以下(2)第六号、(3)第七号、(4)第一〇号、(5)第二一号、(6)第二二号、(7)第二五号、(8)第二七号、(9)第八号である。

(押山雄三)

奈良国立文化財研究所

『長屋王家・二条大路木簡を読む』

(奈良国立文化財研究所学報第六一冊)

長屋王家・二条大路木簡約十一万点の出土は日本古代史に大きな衝撃を与えた。奈良国立文化財研究所では、その釈読・解明を速やかにし、かつ万全を期せんがために、所外の古代史研究者も交えて「長屋王家木簡検討会」を開いた。この検討会が、長屋王家・二条大路木簡研究の強力な推進力となったことは言うまでもない。その成果をまとめたのが本書である。総勢一六人の研究者が、それぞれの切り口から長屋王家・二条大路木簡を読み解いている。B5判、口絵八頁・本文三六四頁。

販売は吉川弘文館から。頒価は一一〇〇円(税別)。